

### 第3章 学生の受け入れ

ていると結論できる。

**【課題・方策】** 今後の課題として挙げられるのは、国際的視野を持つ研究者の輩出である。本大学院は社会人学生が多数を占める。即戦力として社会で活躍する人たちの専門的な要求に答えつつも、より広い視点に立って世界情勢を分析する能力を育成しなければならない。テクニカルな職業人育成ではなく、学問的知識に支えられた専門的職業人を輩出することが一層求められる。また研究者への道を歩もうとする学生に対しても、これまで以上に対外的な研究の場が提供される必要がある。一般的に外部の大学などから本大学院へ入学してくる学生の中には、本学学部出身者に比較して、本学の建学の精神や大学の理念への理解が十分ではない場合もある。表面的な知識ではなく、本学における学問の基礎にあるキリスト教的人間理解から生み出される教育理念を十分理解できる機会を必要に応じて設けていくことが重要である。

## 4 飛び入学

### 1) 「飛び入学」実施

(B:「飛び入学」を実施している大学院研究科における、そうした制度の運用の適切性)

**【現状の説明】** 大学学部において特に優秀な成績を収めた学生が、大学院の政治政策学研究科、アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士前期課程および人間福祉学研究科でより研究を深めさせることを目標として「飛び入学制度」を実施している。出願資格は、「大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年目の課程を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者」と定め、他の志願者と同様の試験科目を課し、選抜している。政治政策学研究科において、開設時に本学政治経済学部の4名、次年度に1名の学生が飛び入学制度を利用して入学した。

**【点検・評価】** 本大学院では「飛び入学」を実施しているが、飛び入学者は学部を中退するという形を取るため、飛び入学生は自分で大学院修了後学位授与機構に申請することになる。学士取得はあくまでも大学院修了が条件となるため、この制度を用いる学生には、慎重な判断が必要なこと、不利益となる場合があることを説明し、十分な理解のもと制度を活用することが求められる。